



金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行・編集 責任者：

般若慎一郎

6月6日に臨時拡大会議が開催され、昨年の第10回で最終回とした「金屋町楽市inさまのこ」に代えて行なう予定の新たなイベントについて説明があった。新たなイベントでは嶋田自治会長が実行委員長を、横山準教授（富大芸文学部、さまのこハウスの設計を担当した）が副実行委員長を務め、9月22・23日に「工芸都市高岡の秋」として、高岡クラフトコンペや高岡クラフト市場街などと連携して行なう見込みです。説明の要点は以下のようなことです。

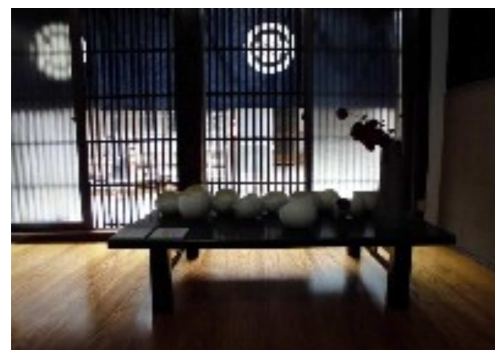
●金屋町元気プロジェクトが目指している定住促進活動などと連携して、未来の金屋町づくりに資するイベントにしたい。そのために住民が主役で参加するイベントとし、来訪者と住民の交流を促進したい。また2日間だけで終わるのでなく、金屋の未来まちづくりの活動に息長く連動していくものにしたい。

●金屋本町の小泉家から金屋古町のさまのこハウスまでをイベントの範囲とする。借りる町屋は5軒程度に絞る。町並みでの展示も数と場所を絞り込む。町屋・町並みを見せることを主眼とし、それを引き立たせるための工芸品展示と位置づける。

●着物通り、ワークショップ、食のイベントなども行なう。町並みや空家のガイドツアーも検討する。

説明の後にイベントの名称について話し合い、アイデアを出し合いましたが、この日出された多くのアイデアから絞り込んで実行委員会決定することになります。

住民がみずから参加したくなるようなイベントにしたいものですね。



大分県日田 (ひた) 市で 全伝建総会



5月30日から6月1日にかけて、大分県日田市において全国の重伝建地区の総会があり、参加してきました。日田市は6万5千人の小さ

な町ですが、駅近辺にいくつものホテルがあるなど、町並みに何かしら活力を感じました。

天領の商家町 重伝建地区「豆田町」

日田市には豆田町という重伝建地区があり、見学しました。日田市はこの5年間に2度の水害を受けており、昨年夏の水害で落ちたJR久大線の鉄橋は未だに不通です。水害時には重伝建の豆田町も多くの建物が床下・床上の浸水被害を受けています。2年前の熊本地震でも少なからぬ被害を受けています。そんな事から豆田町では、かさ上げなどの災害対策と、文化財としての町並み保存という相反する課題に直面しています。

重伝建地区は観光客向けの小さな店舗が軒を連ね、活気を感じます。福岡市や湯布院温泉か

ら近いこともあって年間50万人が訪れるが、その70%は韓国からの観光客だそうです。

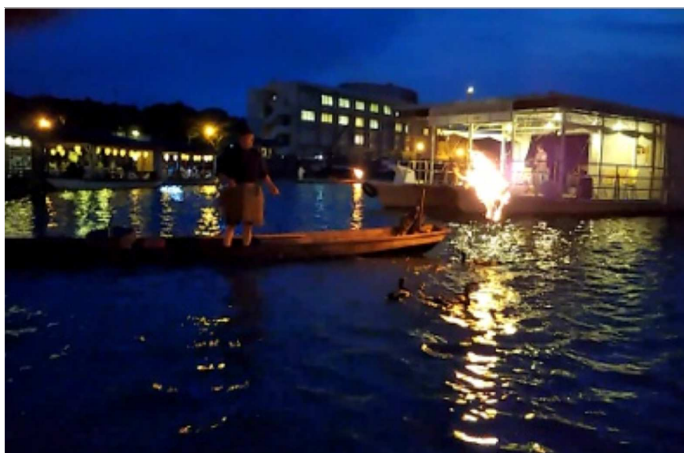
ユネスコの世界文化遺産 「日田祇園の曳山行事」

日田市には合計9基の山鉾が曳山巡行をする祇園祭があり、国重要無形民俗文化財の指定を受け、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。形などは高岡の御車山とは趣が異なります。



三隈川の遊船

日田市には三隈川（みくまがわ）という大きな川がありますが、川に面して日田温泉のホテル街が軒を連ね、それぞれの宿が「遊船」と言われる屋形船を複数保有しています。この遊船を使った食事会が最高のおもてなしだそうで、総会初日は10隻ぐらいの遊船に分乗し、懇親の食事会になりました。遊船とは別の船に「日



田祇園囃子」の囃し方が乗り込んで演奏し、鵜飼船が演技を見せてくれ、打ち上げ花火までやっ

てくれました。

ヤッホーの会囃子方を募集！

弥栄節保存会の囃子方練習日です

場所：金屋町公民館ホールPM7：30～

7月12日（木）26日（木）、8月9日（木）23日（木）、9月13日（木）27日（木）、10月11日（木）25日（木）、11月8日（木）22日（木）、12月13日（木）

歌指導、三味線貸し出します。町内・町外問いません、気軽に参加ください。

問合せ 0766-22-4175金森仁志まで

日本最大規模の私塾 「咸宜園（かんぎえん）」

日田市には廣瀬淡窓（たんそう）が開いた私塾「咸宜園」があり、その跡が史跡として保存されています。国内には他にも私塾がありましたが、咸宜園は約90年存続しその間に5,000人も門下生が学んだことから日本最大規模と言われます。



栃木県の足利学校・茨城県水戸市の弘道館・岡山県備前市の閑谷（しずたに）学校と共同で「近世日本の教育遺産群～学ぶ心・礼節の本源」として日本遺産に認定されていますが、更に世界文化遺産登録を目指しています。

5月の金屋町拡大会議

休会しました。

6月度 金屋町臨時拡大会議

・「金屋町楽市inさまのこ」に代わる新行事について